

の資料になるかもしれない。軒平瓦Ⅲ類は小田富士雄の積年の研究があり、その分類によると式式中六式に位置付けされている。そして、豊前国分寺からも同系瓦が発見されていることを示唆し、菩提廃寺は宇佐地方と何らかの密接な関係があったとされている。軒丸瓦Ⅲ類は、他に類例はなく今後の資料増加を待つて検討したい。年代は八世紀末～九世紀代に考えておく。これら軒丸瓦Ⅰ類、軒平瓦Ⅱ・Ⅲ類を八世紀後半代、軒丸瓦Ⅱ類を九世紀前半代に考えておく。

塔跡の調査で得た結果は大きいものであった。上・下成基壇の検出は改築されていたこと。塔心礎形態は出柄式で九州では類例がなく、貴重であると共に寺院の形態・性格が重要視されること。瓦及び出土土器等から創建年代は八世紀後半ごろに考えられることなどである。寺院の終焉は今後の調査を待ちたい。

## 二 菩提遺跡

遺跡は勝山町大字松田に位置する。国道二〇一号仲哀改良工事に伴う事前発掘調査で、菩提廃寺塔跡から国道を挟んだ対南側にあたる。調査地は道路に沿って四遺跡（東から菩提一～四遺跡）が調査されている。

### ①菩提一遺跡

検出されている主な遺構は、竪穴住居跡二軒、掘立柱建物跡

一棟と土壙、溝等である。竪穴住居跡及び土壙は出土土器等から六世紀後半ごろとされ、二号土壙跡が八世紀中～後半ごろと推定されている。掘立柱建物跡とその他土壙は、十一世紀ごろの生活痕跡と予想されている。

### ②菩提二遺跡

主な遺構は土壙四基、柵列一条である。一号土壙は、縄文時代の遺構で、勝山町内では貴重な発見である。二～四号土壙は青銅系溶解炉の壁片が検出され、奈良から以降の時代において、菩提廃寺に関与した鑄造関係遺構とみられている。

### ③菩提三遺跡

検出された主な遺構は、土壙四基、溝四条、石組み一基、石列一条等である。これらの遺構は中・近世が多く、奈良・平安時代の主だった遺構を検出するに至っていない。遺構検出面は斜面状で、各段差が生じ、その段七・段八の堆積包含層から八世紀中ごろから九世紀前半にかけての土器が多く発見されている。上層部から十二世紀ごろの遺物が少量発見されたため、谷部は九世紀ごろから埋まり始め、十二世紀には完全に埋没したと考えられている。菩提廃寺跡から出土している瓦類も、この段七の西半部から多量に見つかっていることから、付近には寺跡に関係する伽藍の一部があるのではないかと想定されている。

### ④菩提四遺跡

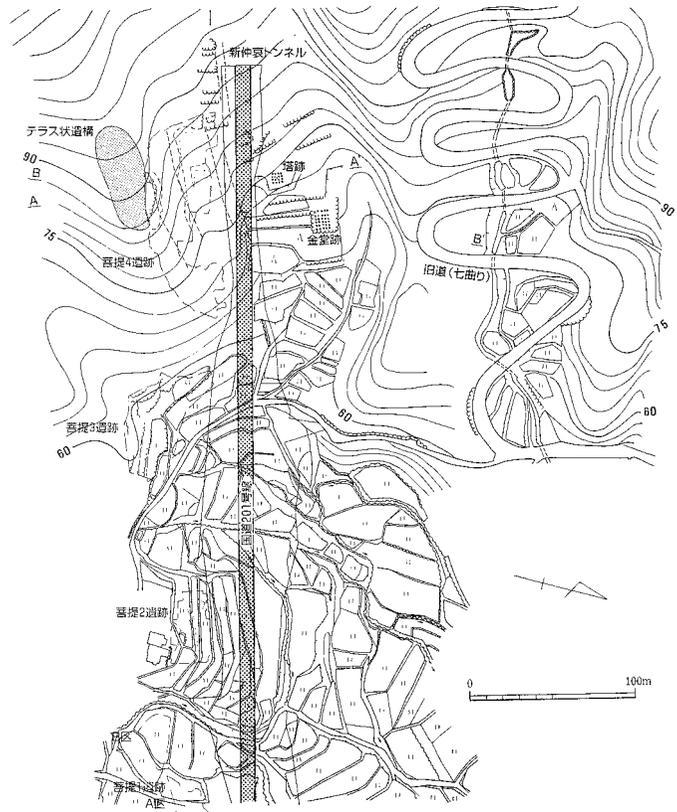


図3—23 菩提遺跡地形実測図

主な遺構は、通路状遺構一、テラス状遺構一、土壙一である。通路状遺構は「南北に並列する二列の石列、その南に二列の石列とそれに伴うと考えられるステップ状の石段を確認した。」と報告されている。更に、昭和三十七・三十八年ごろ、新仲哀トンネル工事掘削以前に撮影した写真と、この通路状遺構を重ね合わせた結果、合致することが判明。このことから、通路状遺構は菩提廃寺関連施設へ至る道路としての役割があつ

たと解されている。

テラス状遺構はやや広い面積を有した所で、菩提廃寺に関連した施設であるとされている。平坦面を覆う個所は石垣で七段以上が確認され、土器・瓦等が多量に検出されている。瓦葺建物が存在した可能性があると見られている。

以上の結果から、菩提廃寺は十二世紀後半から十三世紀前半まで存続した可能性があるとされ、更に、塔・金堂跡周辺のテラス面状に子院や僧坊が広がっていたであろうと推測されている。

追記 町史執筆中に、県教育委員会は、国道二〇一号線新仲哀トンネル改良工事に伴う事前調査として菩提廃寺跡の周辺部調査が、平成十六年度から実施され、現在も継続中である。検出している主な遺構を記すことが出来ない悔しさがあるが、礎石建物及び新種の軒先瓦が発見されている。